

## 第51回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	平井ゼミ	チーム名	平井ゼミ
タイトル	植民地台湾における鉄道敷設と地域経済		
テーマ群	f) 歴史と思想		
メンバー	玉井 稜人		
研究計画内容	<p><b>【研究目的】</b></p> <p>本研究の目的は、日本植民地時代の台湾で発生した物資輸送難を解消するための海岸線の敷設の背景と結果について、路線選定をめぐる地域間紛争の視点を取り入れながら明らかにすることである。</p> <p>日本が1895年から1945年までの間、植民地として領有した台湾には、日本の食料不足及び外貨不足を解消するために米と砂糖の増産と対日移出という役割が与えられていた。台湾ではその要請に応えるべく鉄道の整備が進められていくが、第一次世界大戦期には輸送需要の増大によって鉄道輸送力の脆弱性が露呈し、物資輸送難、いわゆる「滞貨問題」が発生した。滞貨問題は「日本内地に米と砂糖を送る」という植民地台湾の存在意義を揺るがしかねない事態であったのであり、本研究が取り上げる海岸線は滞貨問題の打開策であった。</p> <p><b>【研究意義】</b></p> <p>海岸線について先行研究では滞貨問題を緩和する手段として指摘されてきた。しかし、海岸線の敷設が決定するまでの具体的な経緯や、海岸線が滞貨問題をどの程度解消したかについては研究されておらず、本研究はこの点で新規性がある。</p> <p>特に、先行研究が見落としていたのは、鉄道敷設と地域経済の関係である。鉄道敷設が地域経済に大きな影響を及ぼすことは普遍的な現象であるが、海岸線の敷設においても路線の選定をめぐる各地域の住民が町の将来性を懸念して一斉に誘致活動を開始していた。本研究は、海岸線を滞貨問題のみならず地域経済と関連させる点でも新規性があり、近年関心が高まっている植民地下における「公論(consensus)」の問題や地域間紛争の問題を取り上げた先行研究にも資するものだと言える。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>まず、台湾の産業構造や輸送構造を概観し、滞貨問題が発生した時期や品目、問題点などの特徴を述べる。つぎに、滞貨問題を打開するための鉄道強化策としてなぜ海岸線の敷設が選ばれたのかを、当時発行されていた新聞『台湾日日新報』の記事や帝国議会の議事録などを用いて明らかにするとともに、各地域の住民は海岸線の路線選定にどのような関心を向け、誘致運動を行ったかについて明らかにする。最後に、海岸線が敷設された後に滞貨問題はどれ程解消されたのか、また海岸線の敷設は各地域の経済の浮沈にどのような変化をもたらしたのかということ考察する。</p>		